

平成 22 年度豊かなむらづくり全国表彰事業 受賞地区の業績内容

(タイトル) 地域のために、地域と共に

(集団名) (有) グリーンワーク



1 むらづくりの主体

- | | |
|-----------|---|
| (1) 名称 | 有限会社 グリーンワーク |
| (2) 所在地 | しまねけんいずもしさだちようひがしむら396ばんち4
島根県出雲市佐田町東村396番地4 |
| (3) 地区の規模 | 集落の集合体（5集落） |
| (4) 組織の性格 | 地縁的な集団等 |

(5) 代表者の^{ふりがな}氏名、^{ふりがな}役職及び住所

氏 名: 山本^{やまもと} 友義^{ともよし}

役 職: 代表取締役 (有限会社 グリーンワーク)

住 所: 島根県出雲市佐田町東村396番地4^{しまねけんいずもしさだちょうひがしむら396ばんち4}

(6) 地区概況一覧

総人口	農 業 就 業 人 口	総世帯数	総土地面積	耕 地	採草放牧地	山 林
290人	50人	105戸		23.62ha	3.42ha	58.63ha
農家戸数	専業農家	第I種兼業農家	第II種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業的農家
59戸 うち販売農家 33	8戸 (24%)	0戸 (0%)	25戸 (76%)	2戸 (6%)	3戸 (9%)	28戸 (85%)
地 域 指 定 状 況			農業地域類型区分			
①農振指定状況 昭和48年度指定 ②出雲市森林整備計画策定 平成20年度 ③都市計画の有無 有り・ <u>無</u> ④その他			市 町 村		当 該 地 区	
			都市的地域		都市的地域	
			近くのD I D (人口集中地区)都市			
			都市名：出雲市		距 離： 0 km	

2 むらづくりの内容及び成果

(1) 地域の沿革と概要

①出雲市の概要

出雲市は、島根県の東部に位置し、北部は日本海に面する島根半島、中央部は出雲平野からなる平坦部と、南部は中国山地に隣接する山間部が共存する多彩な地形を有しています。総面積は543.5km²で島根県の総面積の8.1%を占めています。

出雲神話の郷として、出雲大社や西谷墳墓群など多くの歴史遺産が点在する本地域は、斐伊川(ひいかわ)と神戸川(かんどがわ)により形成された出雲平野を中心として古くから稲

作地帯として栄えてきました。

農業は、比較的大規模な農家が点在する平坦部と、零細な経営基盤をもち高齢化の進んでいる山間部の零細な農家に二極化されます。そういったなか特産品としてデラウェアを中心としたブドウ産地として全国有数の規模を誇り、エコロジー農産物の生産を積極的に行うと共に、観光農園に活用するなど新たな取り組みが定着しつつあります。また近年では柿、イチジク、出雲そばなどの特産物の販売も伸びています。

②飯栗東村地区の概要

飯栗東村(いいくりひがしむら)地区は、出雲市の南端に位置し中心地から南西30km、車で約40分ほどの山間地域にあり、標高は100~150mの集落です。地区は三つ子山を背にした「受地・萱野」などの山間と、神戸川沿いの比較的平坦低地に存在する「飯の原(いいのはら)・栗原(くりはら)・東本郷(ひがしほんごう)」の2つに区分され、近年は鮎釣りや川遊びで賑わいます。

かつては三つ子山を中心として林業が盛んに行われた本地では、檜で美林を護る「愛林会」も結成されていましたが、木材価格の低迷で現在は林道の維持活動に止まっています。

文化面では、正月に青年部による門獅子が新年を言祝い、神戸川での川祭り、地区の芸能祭の開催など地域間の交流がすすめられています。

(2) むらづくりの動機、背景

①農業が廃れば、地域が廃れる

むらづくりへの取り組みは、平成になってから始まりました。当時東村では地域活性化委員会(栗原、飯の原、東本郷)が組織され、文化部、体育健康部、営農部が下部組織として整備されていました。このなかの営農部における若者の集まりにおいて将来の集落の姿がたびたび語り合われ、「このままでは高齢化と担い手不足により集落内の水田が山に飲み込まれ荒廃して人が住めなくなる。」「農地が荒廃すれば人も住めなくなる。」との危機感から、活性化委員会の営農部門を独立させ、飯栗東本郷営農組合(グリーンワークの前組織)を設立しました。

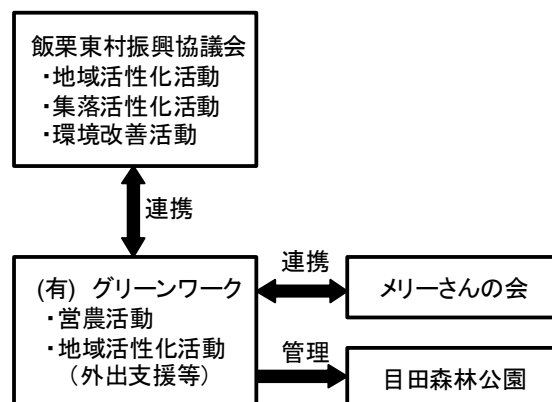
一方隣接地域では「地域救済的組織」のクリーン農園(受地、萱野)が機械共同利用組合として組織されていましたが、担い手不足と機械の老朽化により営農活動が低迷し、圃場の遊休化など農業の衰退が集落組織の存続を脅かす事態となり永続的な経営展開の組織体の設立が切望されていました。

そこで、この隣接する5集落で危機感が共有され、平成14年にこの2組織が合併し、任意組合組織グリーンワークが設立され、平成15年に有限会社法に基づき現在の「有限会社グリーンワーク」が法人経営体として設立されました。

(3) むらづくりの推進体制

①「地域のために地域と共に」

「故郷を子供たちにも誇りあるものとして残したい。」このような理念のもとに(有)グリーンワークは設立されました。むろん地域農業の担い手として、地域全体が安心できる取り組みを



目指すため、経済的に自立した組織として利益を追求する一方、地域に利益を還元するという2つの目的を持つ組織の誕生でした。それは単に経済的な利益還元でなく、通貨では図られない安心・安全を地域全体が共有できる方策でなくてはならず、安心して居住出来る地域そのものである必要がありました。

②地域の一員として

市町村、JAの大型合併で地域のつながりが山間地域でも希薄となりかけている現状を憂い、農道・水路などの補修作業や小学生を巻き込んだ泥田での運動会、田んぼの生き物調査など、共同活動組織「窪田ふるさと会」へ集落の一員として積極的に参加しています。

(4) むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

① 農業生産基盤づくりと担い手の創出

山間部の農業では高性能機械で省力化できる作業以上に、これまで高齢者によって担われてきた補助作業者の減少をカバーする労働力の確保が喫緊の課題でした。これまでの個人経営の延長ではこれらの貴重な労働力の補完とはならず、農地の荒廃防止や地域を守るための面的集積ができない状況になっていました。

そこで地域の担い手として生産活動を行うためには、年間雇用、安定的な収入源の確保ができる事業が必要と考え、集落内にあつたいずも農業協同組合所有のライスセンターや育苗センターの維持・管理を受託するとともに、水田経営の他に育苗事業と乾燥調整事業を行って確実な生産基盤をつくり、年間雇用できるオペレータの確保を可能としました。

また、平成16年から水稻育苗後に遊休化する育苗ハウスの高度利用を目的として、軽少土培地耕(通称:たる栽培)でのトマト栽培にも取り組み、初夏から晩秋までの収穫を目標に昨年度は約150樽(600本)の作付を行いました。生産物は敷地内の直売所において販売し、約38万円の売り上げを上げることが出来ました。

② 女性の力が新たな製品をつくる

集落営農が定着するにつれて、水田の補助作業から女性が解放され自由な活動の場を広げることとなりました。その一つが遊休農地の畦畔管理の省力化のために導入した羊の毛の加工でした。

地域内の手芸グループ「メリーさんの会」がこの自前の羊毛に注目し、羊毛手芸品の生産を始めました。ここで生産される羊毛は市販の毛糸と異なり、すべて女性の手作業で作られます。毛の洗浄から糸巻き、染色までの毛糸生産工程と、毛糸を利用したマフラー、ベストの生産は自然の素材を使い、無添加を前面に出した羊毛製



育苗センターの様子



糸くり機実演風景

品を生産となっています。

羊の増頭が進み20頭をこえるまでになった昨年度からは、活動の拠点をそれまでの遊休期の育苗センターから、(有)グリーンワークの敷地内にあらたに建設された加工施設「メリーさん工房」へ移し、活動の充実がはかられ各種イベントで積極的な販売を行っています。

現在では固定客も確保され、マフラーやベストなどの製品などは、1年以上の入荷待ちが出るなど好評を博している状況です。

③就業機会と後継者の確保

(有)グリーンワークの事業経営の柱は、「米づくり」、「育苗・ライスセンター運営」など農業部門で3月から10月までの労働です。これに後述の高齢者等外出サービス事業、「目田森林公園の管理」などの他部門の活動を加えて1年間の雇用体系を確立しています。

この結果地域外から1名のIターン者を受け入れるとともに、その他に4人を常勤体制で雇用することが可能となりました。

最近では、ラジオ・雑誌等を見て見学に来る学生もあることから、出雲市の空き家斡旋事業を有効に活用し、作業・定住体験を行い集落になじむ人材の確保を行うなど若者の定住対策にも力を注いでいます。

(5) むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

① 高齢者の外出支援

本地域も他の山間地域と同様高齢者世帯が増加し、中には自動車の運転も出来ない高齢者が増加していました。高齢者や身体障がい者が自宅と福祉施設等を行き来することはまさに死活問題でありましたが、そのためにはバス等の公共交通機関が発達していない本地域にあっては片道約30kmの市街地までタクシー等の交通機関を利用するしかなく、この負担は高齢者世帯には大変大きなものとなっていました。



高齢者等外出サービス事業

そこで(有)グリーンワークでは地域の高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援することを目的として、国と市の事業を活用し「高齢者等外出サービス事業」を展開することにしました。本取り組みでは、高齢者が安心して利用してもらえるよう「ドアtoドア」を実現するために事前予約制とし、きめ細かな対応に心がけ、場合によって対応が異なりますが通常は病院窓口まで付き添い、診察が終了するまで病院内で待機するなど、手厚い支援をおこなっています。

その結果、地域内のみならず旧佐田町全体に取り組みが広がり、現在では80人の高齢者が登録し40人程度が定期的な通院に利用されるまでに至っています。また、市内中心部に出ることの少ない高齢者等の要望にも対応し、場合によっては買い物等荷物を運ぶなど地域生活には無くてはならない存在にまで定着しています。

② 羊を活用した畦畔除草

棚田の混在する本地域の水田管理にとって問題となっていたのが畦畔の草刈りでした。

水稻栽培期間中は夏場に2～5回の除草作業を実施する必要があり、高齢者にとって急傾斜地の草刈りは大変な重労働かつ危険な作業でした。そこで、これに代わる労働力として、当初は牛や山羊といった地域で飼育されていた動物の活用を検討しました。しかし畜舎設置や飼育管理に膨大な労働力が必要となることから断念し、平成17年に羊を導入し畦畔管理をおこなうことに取り組みました。

「羊の舌がり」は、畦畔雑草をきれいに菜食し、労働力軽減に大きな役割を果たしてくれることとなりました。さらに、予想外の効果として、羊を放牧したことでイノシシによる水田被害も減少しまさに一石二鳥の活躍をしています。

当初3頭で始めたこの事業も平成20年度には20頭にまで増頭し、昨年生まれの4頭の子羊も加え、本年度は24頭が約3haの農地の畦畔除草部隊として活躍することになっています。

また、羊の導入は地元の窪田小学校の子供たちの教材としても活躍することとなりました。小学校が借りた農地に羊を放ち、毛刈り体験も児童がおこなうことで「命の大切さ」を学ぶよい教材として活用されています。

3 むらづくりに関する所見

有限会社グリーンワークは農業生産の取り組みのみでなく、新たな雇用確保のための森林公園等の管理委託業務、高齢者支援のための外出支援サービスなど多岐にわたる地域生活維持の取り組みを行い集落の維持、振興の役割を担っています。

また、羊を中心とした地域との連携を図ることで、小学生、若者、高齢者の豊かな生活作りに貢献し、あらたな活動拠点として、地域と有機的な連携を図っています。

さらに有限会社組織でありながら「農が廃れば、地域も荒廃する」との理念から、地域の一人として活動し、地域経済と生活の根幹を形成する主体として地域の雇用の受け皿となり、地域生活の担い手として地域活動を下支えています。

近年始まった軽少量培地耕(通称:たる栽培)でのトマト生産やエコロジー米生産(農薬・化学肥料の5割減)では、宅配を中心に独自の販売ルートを確立し、付加価値の高い農産物の販売で所得向上に努め、継続した黒字経営をつづけています。また、今後はラム肉を販売するバーベキューハウスの新設などグリーンツーリズム的な経営展開も検討しています。

このような集落維持と経済主義の2つの理念が共存している組織は、他に例を見ることが出来ません。地域の豊かな自然と集落の営み、人材育成と都会からの人材吸収をすすめ、今後後発する営農組織や地域を守り育てる法人経営のモデルとなると考え、これを高く評価するものです。



たる栽培を利用した小学生の収穫体験